

AOI通信

静岡音楽館AOI倶楽部情報誌
MARCH 2012 No.65

春号

アレクサンドル・タロー (ピアノ) インタビュー

コンサートシリーズ 2012-13
[第1期] の聴きどころ

どこでもAOI
静岡市立大河内小・中学校

CONCERT REPORT

調律師とピアノ

静岡音楽館AOIの
市民会議委員ってどんな人?

シェフ池田の美味しいレシピ





アレクサンドル・タロー（ピアノ）インタビュー

「今はパリの自宅にいますが、カナダとニューヨークから帰ったばかりです。北米には、CDや演奏会のプロモーションに行きました。“ショーケース”といって、今年11月に同地で行われる演奏会のためにインタビューやミニ・コンサートをしてきたのです。」

このところ大忙しのアレクサンドル・タローさんは、実は日本では1990年頃に一度デビューしている。そのころは、ダリウス・ミヨー夫人のナレーションを伴ったプーランク「ぞうのババール」のピアノ演奏や、同「室内楽全集」をNAXOS社でプロデュースするなど、活発な活動を展開していた。日本でも、1991年には東京都交響楽団などオーケストラに招かれたり、リサイタルでラヴェルの「ラ・ヴァルス」をそれは見事に演奏して、大きな話題となった。その後、日本においては充電期間を置き、改めて2007年にラモーとクーブランの混合プログラムを引っさげて、東京の王子ホールで鮮烈に再デビュー。その繊細な音色や、軽やかなピアノイズムで聴く者を惹きつけた。また、静岡音楽館AOIに登場して無伴奏プログラムで会場を沸かせたチェロのジャン＝ギアン・ケラスとのデュオでも、古典から現代音楽までの幅広いレパートリーで定評を得ている。CD録音も意欲的に行っており、「ラヴェル・ピアノ作品全集」、「ラモー・新クラヴサン曲集」をはじめ、「ショパン・ワルツ集」「スカルラッティ・ソナタ集」ほかも世界で好評を博している。今やクラシック界のCD売り上げ上位の常連である。今年に入ってからさらに忙しさがまして、お仕事の合間のほんの隙間にお話が伺えたアレクサンドル・タローさん。実はインタビュー当日も午後の予定はつまっていて、まず翌日の早朝にポルトガルのリスボンに発つための荷造り。そして先頃の録音したCDの演奏録音を聴いてのチェックをすませてから、友人宅に向かい夜まで練習をする、というスケジュール。そんななか、今回のインタビューは、いま流の“スカイプ”（インターネット通信の一つ）で行った。

——良い年末年始を過ごしましたか？

毎年12月は、演奏会は引き受けないことにしていて、ひと月休暇を取っています。去年は、3週間カナダのケベックで過ごしました。毎日、午前中はプールに行きヨガをやって、午後はピアノを弾いて。演奏会のプレッシャーから逃れてじっくりピアノと向き合うのです。

——それは、素晴らしい習慣ですね。あちらでは何を練習していたのですか？

たくさん! (笑) 今まさにあちらこちらで演奏している、多岐にわたるプログラムと、CDプロジェクトの準備でした。

ティエリー・ベクーという同時代の作曲家の「ピアノ協奏曲」、ショパン、ドビュッシーや、バッハの「ゴールドベルク変奏曲」など。ベクーの「ピアノ協奏曲」は、ロレーヌ地方のメッス市を拠点とする、ロレーヌ・オーケストラと先日共演してきました。この「ピアノ協奏曲」は私が委嘱した作品ですので、できるだけいろいろなところで演奏しようと努力して機会を探しています。

「ゴールドベルク変奏曲」は、ずいぶん前から演奏したかったのですが、目の前の演奏会に追われてしまって、今までなかなか思うようにこの曲を勉強するための時間が取れませんでした。

そうそう、あなたとは昨2011年1月に東京で会いましたね。あのときは、僕は7ヶ月の休暇のあとの初めての公演だったので、共演者のジャン＝ギアン・ケラスのいつもの演奏会への興奮状態にまったく戸惑っていました。何しろ私はすっかり脱力していたので。というのも、その直前まで7ヶ月間、ゆっくりテクニックの訓練をして、呼吸法を見直し、ピアノに向かう姿勢を補正していたからです。このようにしながら、新しい“音”も見つけ出すことができました。年齢を重ねると、身体もだんだん変わってきます。たくさんのができなくなり、たくさんの変化が起こります。ですから、自分の今の身体に相応しい筋肉を作り、体型を整えたりするために、7ヶ月かかりました。そして、その間じっくりと「ゴールドベルク変奏曲」に取り組むこともできました。1小節に1日かけて探求したこともありましたが、一つの音楽フレーズをどう弾こうか、それにはどういう身体運動が関わってくるかと1日を費やしたこともありましたが、何しろ20数年の演奏生活で、初めて時間ができて、演奏会に妨げられずに練習に没頭することができたのです。何と楽しかったことでしょう! そうして仕上げた「ゴールドベルク変奏曲」を、2011年4月に初めてバルセロナで演奏しました。その後今までにまだ4回しか弾いていません。これから大事に演奏していこうと思っているからです。

——それは、次の機会に是非聴いてみたいものですね。「ゴールドベルク変奏曲」を一晚の演奏会で弾くときには、何か小品を添えますか？

いえ、「ゴールドベルク」一曲の方が良いと思います。アンコールにも応えません。そのものが“神聖なもの”のようで、何もつけ足したくないからです。

来月はジャン＝ギアン・ケラスとの2回の演奏旅行にも出かけますが、彼とのストラヴィンスキーの「イタリア組曲」は10何年も弾けなかったのも、またさらい直して苦勞しています。それから、先日録音したばかりの1920年代の作品群とか、先週オランダで弾いてきたモーツァルトの「ジュノム協奏曲」の練習もカナダでしていたわけです。

——すごくいろいろな種類の音楽を、同時に練習していますね。

一曲にフォーカスをあてて深く練習することが好きなのですよ、本当のところは。いまは、どうしてこんなことになっちゃってるのか! 実際、ほんとに疲れている毎日です。僕の身体は、筋肉も関節もこんなにたくさん弾くようにできていないのに…。

——今年の6月の来日では、いよいよ初めての来静ですが、静岡の聴衆のみなさまに、メッセージをいただけますか？

静岡を訪ねることは、とても楽しみです。今まで静岡で弾いたことがありませんし、私にとって見知らぬ都市への初めての訪問ですから。とりわけ嬉しかったのが、素晴らしい作曲家でピアニストのノダイライチロウ氏が私を招待してくれたことです。

みなさまの前で演奏する、スカルラッティ、ドビュッシー、ショパンという組み合わせは、私がとても好きな演奏プログラムです。そしてこのプログラムは、私自身をよく表してくれるものと確信しています。というのは、この3人は、私の音楽人生とは切り離せない作曲家ですから。

スカルラッティ、ショパンは、歌、つまり人間の声や自然、そして感性、喜びの作曲家といえるでしょう。彼らを一同に集めて演奏することを私はとても好んでいます。異なる時代ですが、同じ家族の一員のように感じられますね。

ドビュッシーは、今年が生誕150年記念といいますが、今年だけに限らず毎日祝っても良いくらいですよ。ドビュッシーの「前奏曲集」は、若い頃たくさん弾いた曲です。「前奏曲集」のどの曲も好きですが、いくつかを選曲する場合は、形式やバランスを考えています。今回の組み合わせも、それぞれが呼応しあう曲を選んだつもりです。

——タローさんのお気に入りの作曲家は、ほかにもいますか？

私の好きな作曲家は、私を常に導いてくれるバッハを筆頭に、フランス人作曲家では、ラモー、クーブラン、ラヴェル。ラモーはとてもドビュッシーに近く、クーブランはとてもラヴェルに近い作曲家ですね。クーブランとラヴェ

ルはとても内向的で、吟味され、科学的に計算された節約というか、音が多すぎないのです。

——スカルラッティは、CDでも実に柔軟で生き生きとした演奏を楽しませてもらいました。ドビュッシーのCD録音の予定は？

ドビュッシーは、「チェロ・ソナタ」をジャン＝ギアン・ケラスと録音しています。そして「ラモーをたたえて」を「ラモー・新ソナタ全集」の最後にボーナス・トラックのように収録しただけです。ピアノ曲集もいつかはやろうとは考えていますが、ドビュッシーのCD録音は将来のプロジェクトです。

——つい最近、ミヨーの「屋根の上の雄牛」を録音したのですってね？

ええ、“1920年代のパリ”の音楽のみのCDを企画したのです。ベル・エポック時代のすばらしいピアニストに触発されて、この企画を思いつきました。ジャズにとっても影響を受けている時代ですね。ソプラノ歌手のナタリー・ドゥッセイやピアニストのフランク・ブラレイとの録音です。ブラレイとは2台ピアノで、私が特に惹かれている当時の作曲家、兼ピアニストのクレモン・ドゥーセとジャン・ヴィエネの作品を演奏しています。彼らは、ガーシュインなどアメリカ作品の編曲もたくさんしました。

——以前にも、ある女性ピアニストのCDボックスに推薦文を寄せていましたよね。同じ時代のピアニストではなかったですか？

ああ、マルセル・メイエールです。彼女も自発的でひらめきがある秀でたピアニストでした。そうですね、同じ時代に生きた非常に重要な音楽家です。

——まったく、本当にすばらしい演奏家がたくさん輩出された時代なのですね。

ええ、面白いCDになると思いますよ。録音は、ほぼ終わり、3月に私自身がピアノ曲を一曲録るだけです。そして10月にはリリースされる予定です。日本での発売を、待っていてくださいな。

——スカイプでは、タローさんの後ろに、すてきなお部屋が映っていますね。

僕の書斎です。ピアノはありませんよ。自宅でピアノを練習するのは嫌いですから。友人や知人の家のピアノを借りて時間を区切って練習に向かうと、とても集中して効果的なのです。

——後ろにあるのは、ラヴェルの肖像画ですね？

写真から起こしたデッサンです。そして、机の上には、ほら、こんなに楽譜が。これから未編集の録音CDを聴きながらチェックをしなければ。

——では、おじゃまをするのはこの辺で…。静岡でお待ちしております!

お話を聞いた通り、常に真摯にピアノに向かうタローさん。バリトン歌手とバリ・オペラ座のバレリーナだった両親から受け継いだスタイリッシュな感覚とその美しい音色を、是非みなさまに楽しんでいただきたい。

取材：野平多美（作曲家、音楽評論家）

アレクサンドル・タロー ピアノ・リサイタル

2012 6/22 金

19:00 開演 (18:30 開場) 静岡音楽館AOI ホール (8F)
全指定 ¥4,000 (静岡音楽館倶楽部会員 ¥3,600、22歳以下 ¥1,000)

*未就学児はご入場いただけません。

曲目

D.スカルラッティ：6つのソナタ

二短調 Kp.64、ホ長調 Kp.380、イ短調 Kp.3、
ハ長調 Kp.514、ヘ短調 Kp.481、二短調 Kp.141

生誕150年

C.ドビュッシー：6つの前奏曲

前奏曲集 第1巻 より
〈デルフィの舞姫たち〉〈帆〉〈野を渡る風〉
〈音と香りは夕暮れの大気に漂う〉〈アナカプリの丘〉〈沈める寺〉

F.ショパン：2つの夜想曲

嬰ハ短調 (遺作) op.posth.、変ホ長調 op.9-2

ピアノ・ソナタ第2番《葬送》変ロ短調 op.35

CONCERT SERIES

コンサートシリーズ 2012-13 [第1期] の聴きどころ

森麻季 ソプラノ・リサイタル

5/16 (水) 19:00開演 (18:30開場)

全指定¥4,500 (会員¥4,050)

出演/森麻季 (ソプラノ)、山岸茂人 (ピアノ)

曲目/山田耕筰: からの花

久石譲: Stand Alone

G.プッチーニ: 歌劇《ジャンニ・スキッキ》より

〈私の愛しいお父さん〉ほか

森麻季がAOIへ。〈私の愛しいお父さん〉をはじめ、よく知られたオペラ・アリアから日本歌曲まで、様々な「うた」を聴かせてくれます。彼女の澄んだ美しい歌声がホールを包み込んでくれることでしょう。



© Yuji Hori

ランチタイム・コンサート

中野振一郎

チェンバロ・リサイタル

5/31 (木) 11:30開演 (11:00開場) *12:30終演予定

全指定¥1,800 (会員¥1,620)

曲目/D.スカルラッティ: ソナタ 変ホ長調 Kp.193

J.-Ph.ラモー: 鳥たちのさえずり ホ短調

A.フォルクレ: 組曲第5番 ハ短調 より ほか



© 稲見伸介

奏者による楽しいトークあり、チェンバロの音色を初めて聴く方にもその魅力を知ることができる、約1時間のミニ・コンサート。コンサートの後は、チケット・で・スマイル加盟店でお得なランチなどいかがですか？

お得なセット券も!
「ランチタイム・コンサート セット券」¥3,000 (会員¥2,700)
① 5/31 (木) 中野振一郎 チェンバロ・リサイタル
② 2013 2/22 (金) 藤原道山 尺八リサイタル

アレクサンドル・タロー

ピアノ・リサイタル

6/22 (金) 19:00開演 (18:30開場)

全指定¥4,000 (会員¥3,600)

曲目/C.ドビュッシー: 6つの前奏曲 前奏曲集第1巻 より

D.スカルラッティ: 6つのソナタ

F.ショパン: ピアノ・ソナタ第2番《葬送》変ロ短調 op.35 ほか



© Marco Borggreve
Licensed to
Virgin Classics

イケメンピアニスト、アレクサンドル・タローがついにAOIに登場。2008年に来日した際の公演では絶賛の嵐。ドビュッシーをはじめとしたプログラムでフランスピアノイズムの神髄をぜひご堪能ください。

日本の響きでつづる

七夕のまつりに

7/7 (土)

18:00開演 (17:30開場)

全指定¥4,000

(会員¥3,600)

出演/伶楽舎、

竹本綾乃助 (浄瑠璃)、志田真木 (琉球舞踊)、

鈴木真為 (歌、箏) ほか

曲目/朗詠《二星》(藤家流・近藤静乃 復曲)、義太夫《杉酒屋》の段、琉球舞踊《かせかけ》、寺嶋陸也: 箏歌《星合曲》(静岡音楽館AOI委嘱作品)

愛し合う二人…。離れ離れの男女が互いの思いをつのらせる。七夕の夜に、恋人たちの切なる慕情を描いた「朗詠」「義太夫」「琉球舞踊」「箏曲」の名作を、一挙上演!

* 価格は税込みです。

* 都合により内容を変更する場合がございます。

* 未就学児はご入場いただけません。

22歳以下
¥1,000!

募集中!

いずれも年1回の募集です。
お見逃しなく。

第7期 ピアノ伴奏法講座

音楽的・技術的指導はもちろんのこと、楽曲分析や楽器奏者の視点にたった講義、さらにはピアノという楽器をよりよく知るために調律師による講義もまじえるなど実践と理論を同時に学ぶことができ、毎年多くの応募がある全国的にも貴重な講座です。意欲的なピアニストのご応募をお待ちしています。



講師/ 野平一郎 (作曲家、ピアニスト、静岡音楽館AOI芸術監督)
漆原啓子 (ヴァイオリン奏者)、向山佳絵子 (チェロ奏者)

日程

① 9/22 (土・祝) ② 9/23 (日) ③ 11/3 (土・祝) ④ 11/4 (日) ⑤ 12/8 (土)

⑥ 12/9 (日) ⑦ 2013 2/2 (土) ⑧ 2/3 (日) ⑨ 3/16 (土) ⑩ 3/17 (日)

①、②はヴァイオリン、③、④はチェロ、⑤～⑧はトリオ、⑨は両者、⑩は修了記念コンサートを開催予定。

会場/ 静岡音楽館AOI・ホール (8階)、講堂 (7階)

受講料/ ¥120,000

申込締切/ 4月8日 (日) 必着

聴講生随時募集中!

聴講料/ 一般: 奇数回¥2,000 偶数回¥3,000 (第10回を除く)、
22歳以下¥1,000 *1日有効

お得な10回通し券もあります。

一般¥20,000、22歳以下¥10,000

* 価格は税込みです。* 都合により内容を変更する場合があります。

募集要項は静岡音楽館AOIほかで配布中。ホームページからダウンロードもできます。

～どこでもAOI～

日時: 平成23年12月8日 (木) 11:10～12:15

会場: 静岡市立大河内中学校 音楽室 出演/ 野平一郎 (ピアノ)

野平一郎 ピアノ・ミニ・コンサート



演奏会場となる中学校。
景色と空気が綺麗でした。



大きな拍手でお出迎え。



子どもたちは間近で見る演奏を食い入るように見ていました。

曲目/W.A.モーツァルト: ピアノ・ソナタ第11番 イ長調 K.331より 第3楽章《トルコ行進曲》

L.v.ベートーヴェン: エリーゼのために イ短調 WoO.59

ピアノ・ソナタ第14番《月光》変ホ長調 op.27-2 より 第3楽章

F.ショパン: 小犬のワルツ 変ニ長調 op.64-1

華麗なる大円舞曲 変ホ長調 op.18

C.ドビュッシー: 《ベルガマスク組曲》より《月の光》

《子どもの領分》より《ゴリウオークのケーキウオーク》

F.リスト: 愛の夢 第3番 変イ長調 S.541-3

野平一郎: 《音の旅》より《子守唄》《汽車の旅》《メリーゴーラウンド》

静岡音楽館AOIでは、次代を担う子どもたちに、幼い頃から身近に良質な音楽と接して欲しいという願いから、世界的な作曲家・ピアニストであり、当館の芸術監督でもある野平一郎が静岡市内の小・中学校に赴き、その学校のピアノを使って、楽しい音楽のお話を交えたミニ・コンサートを開催する、という音楽普及活動に毎年取り組んでいます。

今回は山あいにある静岡市立大河内中学校を訪問し、地域の小学生ら約60名にモーツァルトやベートーヴェンなどの名曲を10曲ほ

ど演奏しました。演奏の合間には野平一郎氏がそれぞれの曲が誕生するまでのエピソードや、自身の子どもの頃の思い出などを紹介。子どもたちは音楽室のピアノを囲む形で座り、室内に響きわたる美しい音色を楽しんでいました。「テレビでしか見たことなかったコンサートを目の前で聴けて、とても迫力があつた」などの感想をいただきました。



自身のピアノとの
出会い等のお話も交えて。



翌日の静岡新聞に
取り上げられました。

プロの演奏じつくり体験
大河内中ではミニコンサート
「野平一郎ピアノ・ミニ・コンサート」が、12月8日(木)11時10分から12時15分まで、同校音楽室で行われた。約60名の小学生らに、モーツァルトやベートーヴェンなどの名曲を10曲ほど演奏した。演奏の合間には、野平一郎氏がそれぞれの曲が誕生するまでのエピソードや、自身の子どもの頃の思い出などを紹介。子どもたちは音楽室のピアノを囲む形で座り、室内に響きわたる美しい音色を楽しんでいました。「テレビでしか見たことなかったコンサートを目の前で聴けて、とても迫力があつた」などの感想をいただきました。

「静岡の名手たち」を派遣します!

静岡音楽館AOIが開館以来、静岡の新進音楽家の発掘と育成のために開催し、静岡の音楽家たちにとって登竜門的存在となっている「静岡の名手たち」オーディション。合格者はのべ130組にものぼり、作曲家、ピアニストの松谷卓や作曲家の難波研など第一線で活躍する音楽家も多く輩出してきました。AOIでは、これまでに「合格者によるコンサート」の開催だけでなく、AOIのコンサートシリーズや市役所、生涯学習センターでのミニ・コンサートに起用し、オーディションでのロダン賞、コンチェルト賞を新たに設けるなど、合格者の演奏活動のサポートを展開してきました。

AOIではさらなるサポートと「静岡の名手たち」を多くの市民の皆さまへご紹介するため、演奏会等を行う派遣先を募集しています。コンサートや学校での音楽鑑賞教室、イベントでの演奏など、「静岡の名手たち」の出演のご要望がありましたら、ぜひ静岡音楽館AOIまでご相談ください。

* 実施にあたっては経費のご負担が必要です。

お問合せ 静岡音楽館AOI TEL:054-251-2200



第17回「静岡の名手たち」オーディション ぜひご観覧ください。

5/3 (木・祝): 鍵盤楽器部門、邦楽部門

5/4 (金・祝): 管楽器部門、アンサンブル部門 (いずれも順不同、時間未定)

入場無料 * 時間等詳細については後日ホームページにてお知らせいたします。
* 未就学児はご入場いただけません。

コンサートレポート

CONCERT REPORT

オーケストラを聴こう
フライブルク・バロック・オーケストラ
J.S.バッハ：管弦楽組曲全曲

1月12日(木)
加藤浩子(音楽評論家)

自立したアンサンブルが醸し出す 木目の味わい



撮影：日置真光

4曲からなるバッハの《管弦楽組曲》は、〈G線上のアリア〉の原曲である〈エア〉など有名曲を含み、よく知られている割には、実演の機会がそう多くない作品だ。古楽ブームが定着し、モダン楽器の大オーケストラがバッハを演奏することがほとんどなくなったことも、演奏の機会が減ったように思える一因かもしれない。

実際、当時の演奏習慣からすれば、《管弦楽組曲》は、オーケストラ曲というよりアンサンブル作品に属する。バッハが《管弦楽組曲》を演奏したと推定されるケーテンの宮廷楽団や、ライブツィヒのコーヒーハウスで活動していた楽団の編成は10数名。名手も多かったようだから、丁々発止のアンサンブルが聴きものだったはずだ。当時このような合奏音楽は、器楽の独奏曲や世俗カンタータとともに、その用途ゆえに「室内楽(教会ではない空間で演奏される音楽)」と呼ばれていた。

このたび来日したフライブルク・バロックオーケストラは、4半世紀の歴史を誇る、ドイツを代表するピリオド楽器の楽団だが、「室内楽」としての《管弦楽組曲》の醍醐味を、存分に味わわせてくれた。

指揮者を置かず、ヴァイオリン奏者で音楽監督のゴットフリード・フォン・デア・ゴルツが全体を取りまとめる演奏スタイルは、ピリオド楽器のアンサンブルでは珍しくなく、当時の演奏習慣にもかなったやり方だ。だが同様の方式をとっても、音楽監督のリーダーシップがより強く、アグレッシブな演奏をする団体もあるなか、フライブルク・バロック・オーケストラの東ね方はごく緩やかで、各パートの自立性が尊重されている。その結果、各楽器がそれぞれの音色と個性を、呼吸しているような自然さとのびやかさで発揮していた。各々の響きはあくまでやわらかで、木目の味わいと人肌のあたたかさが特徴だ。一部は祝典音楽でもあったと推定される《管弦楽組曲》は、バッハの合奏

作品としてはもっとも華麗に、音の絵巻のように演奏されることも期待しうる作品だが、彼らの演奏にはそのような効果を狙う空気はみじみもない。木立のあいだを涼やかに駆け抜けてゆくような音楽づくりは、「典雅」という形容がふさわしい。

大きな効果をあげたのは、プログラムの曲順だった。有名な〈エア〉(〈G線上のアリア〉の原曲)を含む《第3番》に始まり、これも有名曲が多く、フルート協奏曲に近い《第2番》、休憩をはさんで《第1番》、最後に《第4番》を置いた構成は、編成の大きなものから小さなものへ(最小の《第2番》は1パート1人の合計6人!)、そして再び徐々に拡大し、もっとも大きな編成で終えるという順番。その結果、各曲の個性が際立ち、聴き手は1曲ごとにその味わいに集中することができた。

なかでも緊張感に富んでいたのが、各人の名技が堪能できた《第2番》。トラヴェルソ独奏(カール・カイザー)の達者なこと!(多彩な即興のヴァリエーション!)最小の編成による最大の効果は、バロック・アンサンブルの醍醐味だ。再び編成拡大へと向かう《第1番》では、この作品の大きな魅力である、弦と木管の響きのコントラストが強く印象づけられた。掉尾を飾った《第4番》の冒頭で鳴り響くティンパニとトランペットのファンファーレがいちだんと鮮烈に聴こえたのは、この曲順の効果でもあると思えたのだった。

どこかで視たような。演奏の途中、しばしば既視感がよぎった。後で思い当たった。この楽団は、《管弦楽組曲》とならんでバッハのアンサンブル音楽の精華である《ブランデンブルク協奏曲》を、かつてその作品が演奏されていたケーテンの城館の大広間で録画していたのだ。あの風景がよみがえったのは、600席余の静岡音楽館AOIの空間が、近い空気を醸し出していたせいだと思う。

連載⑧(最終回)

調律師とピアノ

「調律師とピアノ」の連載もいよいよ最終回となりました。最後に今年日本でも公開された「ピアノマニア」という風変わった映画をご紹介します。このドキュメンタリー映画、主役がシュテファン・ニュップファーというウィーンで活躍する現役のコンサートテクニシャン。そして彼が担当するコンサートのピアニストとして、ピエール・ロラン・エマール、アルフレッド・ブレンデル、ラン・ランなど錚々たるアーティスト達が花を添えるという、クラシックファンには特に見応えのある作品となっています。シュテファン(とあえて親しみを込めて呼びますが)は、スタインウェイ社の技術研修の講師として十数年前に何度か来日したこともあり、私はその最初の受講者でした。そんな訳で、おなじみのシュテファンのキャラクターがそのままスクリーンに映し出されている様子に彼を知る同僚達と目を細めて観たのですが、映画の内容としてはエマールのレコーディングのためにシュテファンが一年前から綿密な打ち合わせ、ピアノ選びなどを経て、準備をしてゆく過程が描かれてゆきます。「ピアノマニア」とは、一人黙々とピアノの整備を続けるシュテファンのことなのか、そんな彼に次々とこだわりの注文を出し続けるピアニスト達のことなのか、とにかく「完璧な音を求めて」繰り広げられる、両者の飽くなき追求の世界につけられたタイトルのように思われます。こうしたこだわりの世界はこれまでこの連載でご紹介して来たように、私たちには日常の光景なのですが、一般的には「マニアック」「ちょっとした狂気」に映るかもしれません。ピアノという楽器が発明されて300年来、さまざまな改良が加えられて現代のピアノに至りましたが、それは例えばモーツァルトがより自在で完璧な消音機能を、ベートーヴェンがより広い音

域とダイナミックレンジを、リストがより俊敏な連打機能を…というように、多くのピアニスト、作曲家がより高い演奏機能を求めて来た中で、それに応るべくピアノの改良に生涯を捧げたシュタイン、ブロードウッド、エラールといった製作者たちの格闘の歴史でもあるといえます。昨年他界したスティーヴ・ジョブスが掲げたように既存の常識には収まりきらない発想こそが、革新的な創造を生み出す為には不可欠なのだと思います。およそ可能な限りの改良のアイデアは出尽くしたとも思えるほどの完成度を持つ現代のピアノ、その機能や可能性をさらに広げるためには、ピアニストも私たち技術者も「あの人、ちょっと変?」と思われるくらいの情熱が必要なのかもしれません。

松尾楽器商会
調律師 倉田尚彦



映画「ピアノマニア」上映情報!
公式HP: <http://www.piano-mania.com>
会場: 静岡シネ・ギャラリー
静岡市葵区御幸町11-14
TEL: 054-250-0283

上映時間: 3/31(土) ~ 4/13(金) ①12:50 ②19:15

静岡音楽館AOIの 市民会議委員ってどんな人?①

AOIがコンサートを制作する際には芸術監督、企画会議委員の意見の他に、音楽にゆかりのある方や公募により選ばれた委員で構成された市民会議の意見も反映しています。聴衆に近い視点から意見をいただくことによってより良いコンサート作りに努めております。このコーナーではそんな市民会議委員を紹介していきます。

上利博規

(哲学・芸術文化、静岡大学人文学部教授)

私は小学生のときからピアノをやっていたんですが、練習が嫌で(笑)。中学生のときにベートーヴェンの《運命》の楽譜をみて、初めて作曲というものの精緻なすばらしさを知りました。高校生のときには作曲家になりたいとも思いましたが、大学では哲学の道に。で、いまは静岡大学(人文学部社会科学人間学)で芸術・文化を、その背景にある社会との関係を中心に教えています。プライヴェートでは清水フィルハーモニー管弦楽団でチェロを奏しています。芸術とは、ただ「鑑賞する」ためのものではなく、「つくる」行為です。音楽は耳で聴くものと思われがちですが、そうではなく、五感で感じるものだと考えているので、AOIでいろいろなコンサートを、「生」の響きを聴くことができるのは自分にとってすごく嬉しいことです。まだ「生」のすばらしさを味わったことのない方には、ぜひAOIに足を運んでいただきたいですね。そのためにも、どう聴衆を増やしていくかがAOIの課題ですね。(談)



豚肉の玉ねぎソース

長らく静岡音楽館AOI企画会議委員を務めていただいたバス・バリトン歌手の池田直樹さんは、NHK「きょうの料理 '99創作料理コンテスト」で第1位を受賞するほどの料理上手。ご自宅のキッチンで業務用のガス台をお使いですか。これまで「AOI通信」でいろいろなレシピを教えてくださいましたが、皆さまからの声にお応えて、今回、このコーナーの再開です。



シェフ池田の
おいしい
レシピ

玉ねぎを沢山食べる料理ですので、豚肉の塩はしっかりして玉ねぎは、塩が濃くならないように。



炒めすぎないように。

材料(2人分): 豚ロース肉(とんかつ用)2枚、玉ねぎ中2個
バター、本みりん、醤油、塩、胡椒

1. 豚肉に塩、胡椒をする。
2. 玉ねぎを薄くスライスする。
3. 豚肉を下記のいずれかの調理法で焼く。
 - ・みその深いソテーパンで、油なしで焼く。
 - ・魚焼きのグリルで、油なしで焼く。
4. フライパンにバターを溶かし、強火で玉ねぎを浅く炒め、軽く塩、多めに胡椒し、炒め、さらに本みりん、醤油を振り入れ、炒める。
5. 色よく焼きあげた豚肉を一口大に切り、大皿に盛る。
6. その上にこんもりと高く、玉ねぎを盛る。
7. 食す。極めて美味!! 玉ねぎのおいしさを楽しめます。

池田直樹(バス・バリトン歌手、元・静岡音楽館AOI企画会議委員)



静岡県音楽館 AOI × 静岡県立大学 学芸員 × 静岡市美術館 共同事業

チケットでスマイル

Ticket de Smile 加盟店のご紹介

Ticket de Smile加盟店は静岡街中に58店舗! ぜひご利用ください。

※チケット記載の日付(期間)に限り、1回ご利用いただけます。

※チケットを提示されたご本人さまのみ有効です(店舗によって異なる場合があります)。

● 静岡音楽館AOI

JR静岡駅

さいとう

エスパティオ

サウス

ホテル

センチュリー

志ほ川

静岡銀行

■ファミリー食堂 さいとう

TEL.054-285-1300

静岡市駿河区南町8-9

営業時間/11:00~20:00 日曜日定休

【おすすめ】

スプラッシュやきそば ¥500(写真左)

ラーメン ¥450(写真右)



お食事をされた方に、たいやき(名物)を
1尾(10月~5月)または
ミニチャーハン(6月~9月)サービス

■そば処 志ほ川

TEL.054-285-6455

静岡市駿河区南町5-32

営業時間/11:00~15:00、17:00~20:00

木曜日定休

【おすすめ】

天ざる ¥1,100 五目あんかけ ¥650

かもせいろ ¥850



50円引き

※チケットに記載の日付(期間)から1週間まで1回限り有効

ホールの空調が季節によって寒かったり、暑かったりするときがあるのはなぜですか。

ホールの空調は、お客様、出演者、楽器のコンディション等全てに配慮し、最適な温度になるように努めております。なにとぞご了承のほどお願い申し上げます。また、クローク(8階)では膝かけをご用意しております。どうぞご利用ください。

住まいが遠方のためチケットの購入になかなか行けない。

チケットは静岡音楽館AOIでお求めいただけるほか、銀行振込、現金書留でもご購入いただけます。静岡音楽館倶楽部会員のお客様はお電話にてクレジットカードでご決済いただくこともできます。その際、チケットは無料で郵送いたします。チケットぴあ等でもチケットをお取扱いしております。



未就学児のご入場について

これまで静岡音楽館AOIでは、小さなお子様にもクラシック音楽に親しんでいただけるよう、未就学児の入場制限をおこなっておりませんでした。諸般の事情を鑑み、平成24年度よりAOIが主催するコンサート(一部を除く)では、未就学児のご入場をお断りさせていただくことにしました。なにとぞご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

静岡音楽館AOI学芸員

関本 淑乃

コンサートシリーズ2012-13
ベートーヴェンのすすめ



コンサートシリーズ2012-13。今シーズンも、ソロ、デュオ、トリオ、カルテット、オーケストラ、また、バロック、古典派、ロマン派、近代、現代……と、実にバラエティに富むプログラムとなった。全体を眺めていただくとわかると思うが、今回の特徴はベートーヴェンがいろいろ聴けること。

ベートーヴェンは古典派の、ひいてはクラシック音楽の代表的な作曲家である。クラシック音楽に興味がない人ですら名前を聴いたことはあるだろうし、《運命》の冒頭くらいは知っているだろう。1770年にドイツで生まれた彼は、交響曲、ピアノ・ソナタ、ヴァイオリン・ソナタ、チェロ・ソナタ、弦楽四重奏曲など、いずれも各ジャンルの金字塔となるような作品を残している。とりわけ、ピアノ・ソナタはJ.S.バッハの平均律クラヴィア曲集と並んで重要な作品で、平均律の「旧約聖書」に対して「新約聖書」

と呼ばれているし、交響曲はのちの作曲家たちにとって一つの指標となり、ブラームスにしる、マーラーにしる、彼の影響を大きく受けている。

2012-13のシリーズで取り上げるのは、一つには交響曲第7番(実際に聴けるのはやや先の2013年1月であるが)。ベートーヴェンの壮大さと、聴覚を失いつつあったことによる絶望で自殺を考えたとは思えない、気持ちを高揚させてくれる明るさが魅力だ。とてもリズムカルで、かのグレン・グールドは「世界で最初のディスコ・ミュージック」と評したとか。特に第1楽章の序奏の後に出てくる主旋律は、思わず口ずさんでしまいたくなる楽しさがある。最近でこそTVや映画などでよく使われるようになった作品だが、ベートーヴェンの交響曲と言えば、まずは第5番《運命》、続いて第6番《田園》、第9番いわゆる「第9」というのが定番であった。コンサートで演奏される機会が格段に増えたのは、あの『のだめカンタービレ』で使われて以来だろうか。もっとも、きっかけが何であれ、作品全体を聴いてみたいと考える人がいることは、音楽に携わる仕事をする者にとって非常に嬉しい。TVや映画などで聴けるのは作

品の一部分でしかない。一曲を、それも全楽章を、通して聴くことで初めて感じられることもある。

それに先立つ秋には、ヴァイオリン・ソナタも聴くことができる。ベートーヴェンの10曲のヴァイオリン・ソナタのうち、第5番《春》と第9番《クロイツェル》はよく知られている。もし彼のヴァイオリン・ソナタを聴いたことがなければ、この2曲から聴いてみるというだろう。第5番《春》の旋律はヴァイオリンが奏でるからこそ際立つ美しさ。対照的に第9番《クロイツェル》は大変劇的。別の作曲家によるものではないかと思ってしまうほどのちがいで、そこがまた面白い。そして、昨年、弦楽四重奏曲第7番《ラズモフスキー第1番》を聴かせたAOI・レジデンス・クワルテットは、今年は第8番《ラズモフスキー第2番》を演奏する。ほかにも、このコンサートシリーズではヴァイオリン協奏曲やホルン・ソナタを聴くことができる。

2012年がベートーヴェンの記念の年というわけではないが、この機会にベートーヴェンを堪能してみるのはいかがだろう。さあ、ベートーヴェンがあなたを待っている。

静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。

なお、平成24年度以降の退会をご希望のかたは、平成24年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員(2012年2月末現在) 50音順

- (株)アオイテレック
- (株)SBSプロモーション
- かわした歯科クリニック
- コカ・コーラ セントラルジャパン(株)
- (株)サンタモンコーポレーション
- 静岡ガス(株)音楽部
- 静岡ターミナルホテル(株)
- (株)静岡情報堂
- (株)タミヤ
- (有)丸吉事務機
- 三菱電機(株)静岡製作所
- (株)メディア・ミックス静岡

コンサートシリーズ2012-13

主 催 静岡音楽館AOI 指定管理者(財)静岡市文化振興財団

特別協賛 静岡信用金庫

協 賛 アイワ不動産 HARVEST HOMES

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

※ 価格は税込です。

※ 都合により内容を変更する場合があります。

※ お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更は致しかねます。

※ 場内での飲食、写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。

※ 携帯電話、アラーム付時計等の使用はご遠慮ください。

※ 他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。

※ 静岡音楽館AOIは、施設の構造上、会場準備が整わない状態(開場時間前)で、お客様を8階ホールへご案内することができないため、通常エレベーターは7階止になっております。開場時間になるまで1階エレベーター前か、7階ロビーでお待ちください(ただし、1階エレベーター前でお待ちいただいたお客様を優先してご案内いたします)。

※ 静岡音楽館AOIが主催するコンサート(一部を除く)では、未就学児は入場いただけません(平成24年度より)。



託児サービス

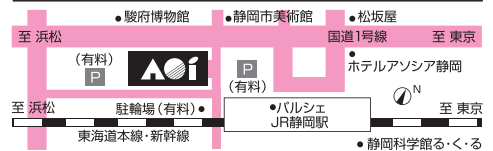
要事前予約・託児料: 1人¥1,000

すわん TEL.054-247-7477(9:00~21:00)

留守番電話の場合は、お名前・お電話番号を録音してください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左

静岡中央郵便局
併設ビル内7~9階



※ 当館専用の駐輪場・駐車場はありません。



CONCERT HALL SHIZUOKA
静岡音楽館 AOI

月曜日休館(ただし祝日開館、翌日休館) 9:00~21:30開館
〒420-8691 静岡市葵区黒金町1番地の9

お 問 合 せ

054-251-2200

AOI

検索